

国連アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）第 77 回総会 宇都外務副大臣ステートメント

（冒頭）

議長、
皆様、

まず、第 77 回 ESCAP 総会の開催をお祝い申し上げます。

新型コロナにより、世界の人々の命・生活・尊厳が脅かされる中、アジア太平洋地域において SDGs 達成に向けた取組の遅れを最小限に食い止め、「よりよい回復」を達成するには、人間の安全保障の考えに基づき、一人ひとりの保護やエンパワーメントを推進していくと共に、あらゆる地域の関係者が連帯して問題解決に取り組んでいく必要があります。

（持続可能な開発目標と我が国の取組）

その観点から、日本は、「誰の健康も取り残さない」という考えに基づき、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進に取り組むとともに、途上国に対する 28.4 億ドルの緊急支援借款などを通じて各国の経済社会活動を改善するための取組を進めています。

（気候変動）

「よりよい回復」を遂げるに当たり、グリーン社会の実現に向けた取組も不可欠です。日本は、昨年 10 月、2050 年までにカーボンニュートラルを目指すことを決定しました。革新的なイノベーションを活用し、積極的に温暖化対策を行うことで、産業構造や経済社会の変革をもたらし、目標達成に向けて取り組んでいきます。

気候変動により、既に我々の地域は大きな打撃を受けています。日本でも、近年自然災害が増加しており、私の地元の鹿児島県では、昨年 7 月、集中豪雨により、土砂崩れや洪水の被害が出ました。国際社会が結束してこの最も緊急なグローバル課題に取り組む必要が

あります。

防災・減災対策の重要性もより一層高まっており、日本はその知見の共有を通じて世界の強靱化に努めています。アジア太平洋地域では、ESCAPも通じて、障害者を包摂し、ジェンダー平等の視点も踏まえた防災事業への支援などを進めています。

(結語)

コロナ危機を克服し、SDGsが達成された、しなやかで強靱な、経済と環境の好循環のあるポスト・コロナの時代を実現するために、日本は引き続きESCAPや地域の関係者と連携して取組を進めていきます。

御静聴ありがとうございました。